

令和6年度第1回伊勢市子ども・子育て会議 議事録

日 時 令和6年7月18日（木） 午後3時00分～午後5時00分

場 所 伊勢市役所本庁舎東館4階 4－3会議室

出席委員 中條、秋山、花田、田口、中北、濱口、前島、竹内、
山本、伊藤、案浦、北川、西山、岡村、大井戸

事 務 局 健康福祉部

- ・健康福祉部次長
- ・子育て応援課 課長、子育て応援係長、こども育成係長、
こども育成係主事2名
- ・保育課 課長、保育係長、施設運営係長
- ・福祉総合支援センター センター長、副参事、こども家庭相談係長
- ・健康課 課長、母子保健係長
- ・生活支援課 課長
- ・こども発達支援室 室長

教育委員会事務局

- ・教育総務課 課長、総務係長、総務係職員
- ・学校教育課 指導主事
- ・社会教育課 課長補佐

傍 聴 者 0名

議 題

- （1）「第3期伊勢市子ども・子育て支援事業計画」策定にかかるニーズ調査結果の報告について
- （2）「第2期伊勢市子ども・子育て支援事業計画」の評価等について
- （3）次期「伊勢市の就学前の子どもの教育・保育に関する施設整備計画」の素案について
- （4）「伊勢市こども計画（仮称）」の策定について
- （5）その他

・事務局より委員・事務局紹介、資料確認

【事務局より】

議題（１）について説明（資料１－１）

（「●」は委員意見、「(委)」は意見に関する委員の意見、「→」は事務局回答を表す）

●子どもたちを取り巻く環境が変わり、いじめなどの様々な問題が起こっていたり保護者の困りごとがあつたりすると思うがどうか。この調査ではあまり出てきていない気がする。もっと子どもの意見を聞きたい。

→今回は保護者へのアンケートであつたので、今後、子どもから意見を聞かせてもらう。保護者の困りごとについては、アンケートでどんな相談場所を知っているかを把握し、困りごとがある方に相談場所を知ってもらい、その周知割合を計っている。子育てに関する悩みがあれば市の相談機関を活用していただけるよう体制を整えていく。

(委) 子どもの意見が親に伝わっているかという疑問がある。

→子どもの声を直接聞けるようLINE相談を実施し、いじめなどの相談に対応している。また、市の施策についても今後中学生や高校生に意見を聞かせてもらい、対応していきたい。

●病児保育が少ないという意見があるが、施設を作ればいいという問題ではなく、子育て中の保護者が休みをとりやすい職場環境にしていけないと解決しないと思う。伊勢市から民間企業への働きかけは。

→事業所内保育所の設置や、育児・介護休暇制度の周知といった休暇をとりやすい環境づくりは県が主になるので、市からの発信は難しい部分ではあるが、企業の福利厚生についてももっと改善できるよう働きかけは必要であると考えている。

●５年前に県外から伊勢市に引っ越してきたが、転入前の自治体と比べて伊勢市の病児保育は使いにくいと感じ利用しなかった。

→伊勢市では、事前登録を紙で書くのが面倒というご意見があり、利用にかかる児童の登録については、オンラインで24時間登録できるようにした。

(委) 他の地域で参考になるような例があれば、伊勢市でも取り入れてほしい。

●「伊勢市は子育てをしやすい市だと思いますか」という質問への回答について、前回よりもポイントが悪くなっている。朝熊山麓公園や大仏山公園が整備され、駅前子育て支

援センターもできた。発達支援施設も含め、環境は整ってきているのになぜ子育てがしにくいとされていると市は考えているか。

→今は他市町の子育て支援情報が簡単に調べられるので、それが回答に反映されているのではないかと。ただ、伊勢市においてもさまざまな子育て支援施策を進めているので、情報発信をすることで市民の皆様に伊勢市が子育てしやすいまちであることをしっかりと届けていきたい。

(委) アンケートを委託した業者から助言や意見などはあったか。

→今はまだないが、今後、伊勢市の現状と課題や見込み量の算出をしていく中で、どの地域にどのような支援が必要かを分析する予定。

(委) 先ほど、情報を収集しやすくなったので他と比べてという説明があったが、それはつまり他市町と比べて伊勢市は子育てがしにくいということになる。せっかく第3期計画を策定する段階なので、施策を進めているが発信力が弱い部分や他市町と比較して遅れている部分など、前回は引き継ぐだけでなく、しっかりと分析をする必要がある。

●子育てについて相談できると知っている場所について、子育て支援センターや中央保健センターと回答した人が8割近くいるのに対し、子育てについて気軽に相談できる人という問いではかなり少ない結果となった。つまり、場所はわかっているが実際に悩んでいる時には相談しにくいというギャップがあるのではないかと。先ほどの子育てがしにくいまちであるとの結果にもつながるのではないかと。良い施設ができたので、どう寄り添うか考えていかないといけない。

→実際の相談件数は増えているが、母子健康手帳を発行する際などに、気軽に相談くださいと声をかけていきたい。

→利用者支援事業ということで、主に子育ての相談を受ける専門員がいる。今まではきらら館の一か所であったが、駅前子育て支援センターを中心にしつつ、昨年度から各支援センターを巡回して子育ての相談受付窓口を開くようにしたので、周知していきながら相談しやすい場所となるよう努めてまいりたい。

(委) 保護者から好評な支援センターは、保護者からの相談を待つのではなく、気になった保護者に先生から声をかけるなどきめ細やかな対応をし、気軽に話せるムード作りがなされている。

(委) 子育てについて気軽に相談できる人について、もう少し「近所の人」の回答が多く、地域の大人が子育てに関心を持ちその関係性の中で子育てをしているというのがみえてくるものかと思った。もしかしたら近所の人代わりに子育て支援センターや保育所等

や、学校の存在があるのかもしれない。様々な見方ができるので、プロの目でも見てほしい。

【事務局より】

議題（２）について説明（資料２-１、資料２-２）

- 資料２-２の３ページ目のNo. 19について、数値の説明をしてほしい。去年の会議資料における令和５年度目標数値と今回の資料の数字が変わっているのはなぜか。また、訪問率とは具体的に何の割合なのか。

→令和５年度の目標数値については、去年の会議で対象者数を662名とさせていただいていたが、令和４年度の第２期計画の中間見直しにおいて量の見込みを令和５年度は680人、令和６年度は642人と変更させていただいており、去年の資料では中間見直しの数字反映が漏れていた。今回お渡しした資料の目標数値は、変更後の計画の目標数値に修正したものである。

→対象者数は、出生数から、里帰り出産などで他市町に行かれた方のうち他市町に依頼した方の人数を引き、逆に伊勢に来られた方で依頼があった方の人数を足したもの。訪問率は、対象者数646人に対する訪問件数621人の割合である。

（委）646人に対し621人の訪問だったため未達成という評価をされたと理解すればよいか。

→目標値と実績値を比較している。対象者数に目標の訪問率93.7%をかけると637人が訪問目標となるが、実際には対象者646人の訪問率96.1%で621人の訪問だったということで、未達成と判断した。

（委）訪問率は100%にならないと達成とならないのか。

（委）訪問率の目標が93.7%で、実際は96.1%となったのであれば評価は達成になるのでは。この数字ばかり見てもいけないのでここで質問は取り下げるが、この訪問事業は児童虐待を未然に防ぐために必要であると思うので、今後も継続・拡大していただきたいという思いで質問させていただいた。

（委）この未達成の部分に、伊勢市が子育てしやすくなるポイントがある可能性があるのでは、検討してもらいたい。

- ファミリーサポートセンターの第３期計画目標で、提供会員数が90人から80人に下がっている。ニーズに対して減らしたのと人が集まらないから減らしたのとは全然違う。今後質問されることがあると思うので、よく検討してほしい。

（委）少ない提供会員が忙しい中たくさんのサポートに対応している。そこは評価されず

会員数だけで判断することがいいことなのか疑問。

【事務局より】

議題（３）について説明（資料３）

- 発達障がいと思われる子の育ちは、環境や人の理解によって症状が軽減されたり大変だったりするものである。パーソナルファイルはその子に必要な支援を周りが共有するものなので、市全体でそのような環境を作っていく支援計画があるとよい。

→お子さんについて保護者が様々な場面で都度説明しないといけなかったり、就学前の施設から小学校への引継ぎ時なども、パーソナルファイルを活用することでスムーズになる。市では複数の場所でファイルを配付したり、関係機関に使い方の説明をしたりしているが、より多くの場面で活用できるよう取り組んでいきたい。

【事務局より】

議題（４）について説明（資料４-１、資料４-２）

- 意見なし

【事務局より】

議題（５）について新規事業の説明、次回開催予定、議事録公開の説明

- 伊勢図書館、小俣図書館の絵本について、東京子ども図書館のブックリスト「絵本の庭へ」がとてもいいのでぜひ選書の参考としていただきたい。また、赤ちゃんへ配付する絵本について、新しく刊行されたものよりも昔からある傑作の赤ちゃん向け絵本を揃えてあげたほうがいいと思う。

- 伊勢市の子育てハンドブックはどのように保護者へ配付されているのか。

→母子健康手帳交付時に皆さんにお渡ししているほか、子育て支援センターなどでも配付している。

（委）とても参考になるので、できる限り最新のものを手元におけるようにしていただけるといい。

（委）伊勢市ホームページにも掲載されているのでそちらもご案内いただければ。

→相談を受ける中で必要な方には配付している。

→伊勢市に転入された際に18歳以下のお子さんがある家庭にはお渡ししている。また、公共施設に設置し、自由に市民の方が手に取れるようにしている。

(委) LINEの活用など、新しい情報もあるので、もっと周知できれば。

(委) 手に取るのは意識の高い方で、そうでない方にも見てほしい。何か、幼稚園などでも見ていただけるような方法があれば。

●資料3 就学前児童数の推移について、出生数はどんどんこのペースで減っていくのか。
→今は具体的な数字は持っておらず、予測はいろいろあると思うが、減少傾向が続くと考えている。

(委) 1年で200人も減るとは少し前では考えられなかった。10年程前から始まった小中学校の統廃合ではここまでの減少は見込まずに配置していたと思う。人口の見込みは慎重にしていかないと、保育所等の公立施設の統廃合をした方がいいが数年で・・・ということもあると思う。

●そのようなところも気にしつつ、人口を増やす施策にも取り組みながら、両面で考えていただければと思う。